

やまと 民俗への招待

鹿谷 熱

7月16日夏過ぎ、近鉄橿原線田原本駅に降り、北に歩いた。梅雨空と真夏の日差しが交互に訪れる気候不順の日々、町なかを歩いていると小雨が降り始めた。雨脚が早くなり、町民ホール入り口で雨宿りをする。再び中街道を北上すると「西皇太神宮 天満宮 常夜燈」「新町村南組」などと刻んだ寛政6(1794)年の石灯籠があった。伊勢神宮を信仰するいわゆる「太神宮灯籠」だ。基礎の石には、多くの名前。奈良屋、堺屋、桜井屋など出身地が分かる名前や、風呂屋、本屋、堀屋など出身地が分かる名前。古手屋など職種が分かる屋もある。堀屋とは、江戸時代に南都随一の産業だった麻織物奈良晒の経糸を扱う業だった。田原本の町のかつての賑わい振りが窺える。

ゴウシンサンを祀る

新町で石灯籠のそばに提灯を吊り下げる人がいた。地蔵尊の祠もそばにある。「近所の人

7軒でゴウシンサンを祀っている」といい、「午後4時過ぎに神職が訪れてお祀りがあり、来週には地蔵を祀る」という。

東西の道は長岡街道と呼ぶ。長谷寺、長岳寺や伊勢への参詣にもかかることもある。この集落に太神宮の灯籠が2基あり、その前で祭りが行われる。その様子を久しぶりに見学したいと考え

神宮灯籠が、寛政8(1796)年に建立されており、この二つの石灯籠は秋祭りのダンジりでよく知られている。この集落に太神宮の灯籠が2基ある。この東西の道と北に寺川を東に渡り、車の行き交う国道24号線を越えて、まっすぐ東に進むと法貴寺(かつての呼び方は、ほうけいじ)の集落に至る。池神社(池坐朝霧黄幡比売神社)は秋祭りのダンジりでよく知られている。この集落に太神宮の灯籠が2基ある。この東西の道と北に寺川を東に渡り、車の行き交う国道24号線を越えて、まっすぐ東に進むと法貴寺(かつての呼び方は、ほうけいじ)の集落に至る。池神社(池坐朝霧黄幡比売神社)は秋祭りのダンジりでよく知られている。この集



①川東の太神宮の祭り—2013年、筆者撮影②川西の太神宮のミユ—2019年、森口淳氏撮影



ほどの大きな法貴寺集落がある。この集落は10の垣内と呼ぶ小集落からできている。集落の東側に寺内、宮の前、西市場、東市場、南と五つの垣内があり、池神社の南側の川堤に、「川東惣講中」によつて笠の部分が八角の太神宮灯籠が建てられている。残りの観音寺、北、西口、西南、前田の5垣内が「川西講中」で、「中の地蔵」の向かいに、

ユ(御湯)を行う。

筆者は2013年に、

この二つの太神宮のお祀りを拝見したが、この日は雨のため残念ながら中止となつた。東の太神宮は3年前から休止していることだつた。

池神社の北にはかつて法貴寺という寺があり、中世、長谷川党と呼ばれた武士団が、ここに拠つて春日若宮おん祭の願主を務めた。同地の神仏への信仰は、紹介した他にも、庚申や金比羅、大日如来や福高明神、斎宮さんなどが祀られ、さらには役行者やハッタサン(八王子)など豊かな信仰世界がいまも展開している。このなかで、垣内単位の信仰ではなく、集落を三分する川東講、川西講という単位で信仰が受容されたのが伊勢の太